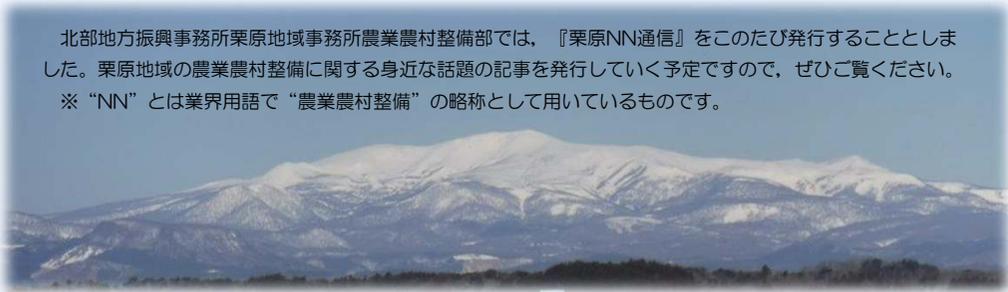




栗原NN通信

2017年6月30日発行
平成29年度 第1号

北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部では、『栗原NN通信』をこのたび発行することとしました。栗原地域の農業農村整備に関する身近な話題の記事を発行していく予定ですので、ぜひご覧ください。
※“NN”とは業界用語で“農業農村整備”の略称として用いているものです。



●主な県営NN事業をご紹介します ●栗原のNN関係機関との連携を図りながら事業を推進しています

(1) 県営農地整備事業

農地整備(※)の推進により、担い手の育成と農地利用集積の促進を図る事業です。

平成29年度は、以下11地区で事業を進めています。

※生産性の向上、農村環境の整備、地域活性化などを目的とする農地基盤の整備のこと。

地区	所在地	面積(ha)	事業年度
王沢地区	一迫	246.0	H 9～H29
大里地区	瀬峰	219.7	H 9～H30
川北地区	若柳・金成・花泉	310.0	H10～H30
川北2期地区	若柳・石越	501.6	H11～H31
芋埴地区	築館・栗駒	42.6	H13～H29
城下地区	築館	37.5	H19～H28
上富地区	瀬峰	49.6	H21～H30
迫第四地区	瀬峰・田尻	87.3	H28～H35
沼田・八木地区	若柳	59.1	H28～H33
大目地区	若柳	134.7	H29～H34
東田地区	高清水	80.7	H29～H36

(2) 県営水利施設整備事業

堰や水路などの農業水利施設の長寿命化を図る事業です。

平成29年度は、稗田地区にて排水機場整備補修に取り組んでいます。

(3) 県営ため池等整備事業

地震や老朽化等で、災害発生の恐れのあるため池の整備、改修等を行う事業です。

平成29年度は、沼倉2期地区にて、ダムに流入した土砂の撤去を行います。

5月17日に当部と栗原市及び関係土地改良区の担当者との「情報連絡会」を開催し、情報の共有を図りました。また、5月24日には「平成29年度みやぎ農業農村整備地域懇談会」を開催し、関係機関との意見交換を行っています。

今後とも、当部では関係機関と連携し、農村整備事業の推進を図っていきます。



凡例

- 地区名 (1) 県営農地整備事業
- 地区名 (2) 県営水利施設整備事業
- 地区名 (3) 県営ため池等整備事業

●迫川上流土地改良区統合整備推進協議会設立総会が開催されました

迫川上流土地改良区と真坂土地改良区の合併に向けた『迫川上流土地改良区統合整備推進協議会設立総会』が、5月23日に迫川上流土地改良区を会場に開催されました。

今後、本統合整備推進協議会において統合整備計画の作成などの協議が進められ、平成30年の合併を目指すこととなります。

県栗原地域事務所農業農村整備部では、合併が予定どおり円滑に進められるよう引き続き関係機関との調整を図っていきます。



※迫川上流土地改良区菅原理事長からの総会開催あいさつの様子

コラム

農地整備事業「沼田・八木地区」の工事が始まります！

地域の皆様に御協力いただき平成28年度新規採択を受けた農地整備事業『沼田・八木地区』の工事が、いよいよ始まります。

現在は、工事に先立ち、現地調査や施工区域周辺の家屋事前調査、土地境界の確認を鋭意進めており、工事着手は収穫後の今年度秋を予定しております。

今回、本記事の作成にあたり、新規農地整備事業の地元キーパーソンとなっておられる実行委員他、役員の皆様に御協力いただき、『事業に期待すること』を取材してきました！



農地整備事業「沼田・八木地区」に期待しておられることは何ですか？
そして、将来どのような地域にしていきたいとお考えですか？

本地区は、昔から大規模転作に意欲がありながらも、耕作条件が悪く、苦勞してきました。また、担い手の育成も進んでいません。

ほ場整備を契機として、耕作条件の改善はもちろんのこと、今後は法人化を目指し、条件不利地を逆手に取って「冬みず田んぼ」等にもチャレンジしていきたいです。

若い担い手が意欲を持って活躍できるたくましい地域を目指したいと考えています。

お話を伺い、地域の未来を背負っている事業だということを改めて強く感じました。御期待に沿えるほ場整備となるよう、地元目線で頑張ります！
(※次回号では、沼田・八木地区の同級生『迫第四地区』を紹介します。)



●栗原市金成で「花いっぱい運動」が実施されました！



6月28日に栗原市立金成小中学校にて、「花いっぱい運動」が『迫川上流地区管理体制整備促進協議会（事務局：迫川上流土地改良区）』の主催により実施されました。

当日は、金成小中学校の生徒92名および先生方、地域住民の方々、関係機関（県、市、土地連）の職員が参加し、ペゴニアやサルビアなどの花をプランターに植えていきました。

プランターは、金成小中学校のすぐ近くを流れる軽辺用水路に設置され、地域の景観や環境美化に一役買っています。また、栗原合庁の玄関にも設置されていますので、お寄りの際ご覧下さい。

●『川北地区』でICT技術研修会が開催されました！

栗原市若柳で実施しているほ場整備事業『川北地区』では農地や道路に高低差が生じており、現在、当事務所発注の県営事業工事により、田面の高低差を解消する等、耕作条件を向上させるためのICT施工を実施しています。

ICTとは、生産性の向上を目的として国土交通省が提唱した新基準で、測量・設計・施工計画・施工・検査に至る全てのプロセスを3次元データ化することにより、作業効率・品質・施工精度の向上を図るものです。この新技術について知識を深めるため、4月26日に当部職員、関係土地改良区、管内の建設業関連企業の方を対象とした研修会が開催されました。

（主催：大目建設（株）／ 協力：宮城エンジニアリング㈱、菊久光組）

UAV（ドローン）を活用した測量データを対応重機に取り込むことで、丁張（工事仕上がり後の法面高を示す目印となるもの）等の設置手間等を不要としながらも正確な施工が可能となります。研修参加者からは「経験のないオペレーターでも施工しやすい」と期待の声寄せられました！



ブルの排土板を自動制御！

●『大里地区』で田んぼアートの田植えが行われました！

栗原市瀬峰泉谷の農地整備事業「大里地区」のほ場において、「田んぼアート」の田植えが5月28日に行われました。今回の田んぼアートには、全国和牛能力共進会大会が宮城で開催されることから、全国和牛能力共進会大会宮城県のマスコットキャラクター「牛正宗（うしまさむね）」が描かれました。この催しは今回で10回目となり、「田んぼアート実行委員会」をはじめとする地域の農家の方々が主体となって行っています。田んぼアートの測量は小牛田農林高校の生徒達、田植えは参加された子供達の手によって行われました。

子供達の田植えを楽しんでいる姿が輝いて見えました。秋の田んぼアート完成が待ち遠しいですね！皆様、また秋にお会いしましょう！



コラム

事業の紹介 ～多面的機能支払交付金（基礎編）～

農業・農村には、皆さんの生活を支える様々なはたらきがあります。具体的には、食料生産、洪水や土砂崩れの防止、自然環境の保全、美しい景観の形成などがあり、これらは「農業・農村の多面的機能」と言われています。

この多面的機能は、農村地域に住む人々の共同活動（農地周辺の草刈り・補修・植栽等）によって維持されています。しかし、近年は農村地域の過疎化、高齢化が進み、地域の負担も大きくなってきました。そこで、農業・農村の多面的機能が将来にわたって適切に維持・発揮されるよう創設されたのが、『多面的機能支払交付金』です。この制度を活用することで、共同活動にかかる経費について、国、県、市町村の支援を受けることができます。



今年の6月、「第13行政区地域保全活動組織（高清水）」で行われた植栽活動の様子です。色鮮やかな花々が、農村風景を彩っていました。



農業・農村の多面的機能はまだまだいっぱいあるので、ぜひ調べてみてね！

編集後記

『栗原NN通信』を最後までお読みいただきありがとうございました。より多くの方に読んでいただけるよう、担当一同頑張っております。

さて、栗駒山では、駒の残雪がきれいに見えております。栗駒山の名前の由来ともなっている駒姿は、古くから春の訪れを知らせるもので、農作業の準備を始める目印にもなっていました。

駒姿は、毎年春先から初夏まで見ることができます。栗原を訪れた際には、探してみてください。



駒姿 ※イメージ図



栗駒山（2017.6 当部執務室から撮影）

北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部（広報担当）発行
〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1

TEL: 0228-22-2111

FAX: 0228-22-9284

H P: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-n/>



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸